

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立西城陽高等学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践 テーマ	【 III・V 】
2 実施 対象者	京都府立西城陽高等学校 スポーツ総合専攻コース 1・2・3年生 121名
3 展開の 形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (○ 専攻スポーツ・体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	トップアスリートの講演を通じて、オリンピック・パラリンピック・国際大会への関心や競技力の向上を図り、2020年以降のスポーツ文化の広がり貢献する人材の育成を目指す。
5 取組 内容	<p>(1) 東京オリンピックを開催にむけて ① 事前学習 10月30日(金)～11月24日(火) ア ポスターセッション (ア) 東京オリンピック開催にあたっての効果及び課題について(新型コロナウイルスの項目除く)</p> <p>経済効果はもちろん、ごみ問題やオリンピック・パラリンピック終了後の施設活用について、また異文化交流などについて課題やその解決法について発表した。</p>  <p>イ 調べ学習 (ア) 東京オリンピックに出場予定の京都ゆかりの選手について京都ゆかりの選手がどのような種目に出場し、活躍が期待されているのか。また、興味を持っている種目や選手について調べる。</p>

(2) トップ選手による講演会

日 時 令和2年11月27日(金)
13:45~15:35

講 師 山西 利和 選手
(愛知製鋼 所属)



【講師の主な実績】

(社会人)

・2019年 ドーハ世界陸上競技選手権 20kmW 優勝(日本人初)

(大学)

・2017年 ユニバーシアード 20kmW 優勝

・2017年 日本インカレ 10000mW 優勝

・2016年 日本インカレ 10000mW 優勝

(高校)

・2013年 世界ユース陸上競技選手権 10000mW 優勝

・2013年 全国インターハイ 5000mW 優勝

内 容 山西選手講演
質疑応答
競歩実演・交流

①講演 13:45~14:45

講演形式で行った。運動が苦手だった幼少期の話、陸上をはじめたきっかけと競歩との出会い、競技生活の話、今後の目標などを高校生に熱く語っていただき、貴重な時間となった。



②質疑応答

興味を抱いた生徒も多く、積極的な質問が多くみられた。

③競歩実演・交流

競歩とはどういう競技なのか、どのように歩かなければならないのかを、実演とともに説明された。その後、生徒全員と競歩リレーなどを行い、競歩に触れる機会を与えてくれた。



	<p>(3) 事後学習 感想・考察レポート提出 12月1日(火)</p>
<p>6 主な 成果</p>	<p>(1) 金メダリスト選手への憧れ 事前学習前は、陸上競技部専攻生徒以外、山西選手のことについて知らない生徒が大半を占めていると考えていた。しかしながら、山西選手が来校されることは伝えずに、東京オリンピックで活躍が期待される京都ゆかりの選手をテーマに調べ学習をさせたところ、世界陸上で金メダルを獲得した実績から、名前を挙げる生徒は多かった。高校から競歩を始めたのにも関わらず、高校・大学・社会人と、どのステージにおいても国際大会で優勝している選手に対し、とても興味を抱いたと考えられる。 講演会当日、生徒たちは山西選手に出会い、どのような話をしてもらえるのか興味津々であった。講演を聴いていく中で、山西選手の真面目な人柄や皆に語りかけるような優しい口調に、緊張がほぐれ、話を熱心に聴く姿が見られた。運動がそこまで得意ではなく、勉強をメインに考えて入学した堀川高校で出会った競歩と指導者との話や、競技に対する真っ直ぐな考え方に感銘を受けた様子であった。東京オリンピックでの目標も語られ、生徒たちは山西選手に対して憧れを持つようになっていった。また、多数の取材者が来たことに対し、「これが金メダリストの凄さなのか」と驚いていた様子であった。今回のオリ・パラ事業を通して、自分も将来、山西選手のようになりたいと思い、強い憧れを持つようになったと言える。高校生にとって日々継続してモチベーションを高く保つのは難しいが、今回の出会いによって、自分たちが目指すべき選手像や目標を明確にすることができたと考えられる。</p> <p>(2) 生徒の意識の変化 山西選手の話の中に、生徒にとって印象に残る言葉が多くあり、その言葉を聞いて生徒の意識が変化していくのが感じ取れた。生徒たちが印象に残った話に共通していたのは、「無い物ねだりをして何も変わらない。工夫する中で、自分で考える選手に。」「下を見て安心するな。上を見て悩め。」「失敗を恐れず、挑戦する。“できない”を“できる”に。失敗は成功のもと。」「環境・時代の変化に対応する。」「世界一(勝ち負け)だけがゴールではない。」等の言葉であった。特に、「自分を信じて何事に対してもできると思うこと。」という内容は昨年の阪神タイガース岩田稔選手、一昨年前のパラリンピアン山本篤選手、3年前の陸上の右代啓祐選手の講演会でも共通して話されていたことであった。生徒にとって結果を出されている選手の言葉は印象的であったと考えられる。それに加え、現役で京都大学に合格され、高いレベルで部活動と勉強の両立を実践されてきたことは、文武両立を大切にしている本校においては模範となるべき選手であり、実践されてきた内容の一つ一つに重みを感じていたように考えられる。 質疑応答になると、生徒たちは真剣に質問を行い、山西選手もそれに対し丁寧かつ熱心に答えてくれ、山西選手の強い想いが伝わっていたようである。自分たちも山西選手のようになりたいという憧れや強い意識をもって頑張らねばならないという考えを再確認させられ、意識が講演前と比べて高まったと考えられる。 競歩の実演・交流では競歩の歩き方指導から、競歩リレーと生徒たちの中に飛び込んで交流を図ってくれた。全員が競歩を行う中で、丁寧に何度も生徒のために実演を見せ、競争を行ってくれる姿に生徒たちも大盛り上がりするとともに、山西選手の実力と優しい人間性に心を打たれた感じであった。</p>

講演会全体として、コロナ禍での開催であったために、制約を設けながらの実施ではあったが、こういう状況だからこそ、与えていただける環境に感謝し、無い物ねだりをすることもなく、自身がやるべきことを工夫して行うという山西選手の言葉がより深く心に響いたのではないかと思う。

(3) 東京オリ・パラへの興味と出場への意欲

新型コロナの影響はあるものの、東京において行われる予定であるオリンピック・パラリンピックに向けて、山西選手との講演会での出会いによって、生徒たちがオリンピックに対して興味を持ち、応援したい選手として身近に感じてくれたことは今回実施した意義や成果はあったと考える。そして、開催された際には、皆が山西選手の金メダル獲得へ向けて心から応援できる機会を作っていきたい。



7実践において工夫した点
(事業の特色)

(1) 講師選びと時期選びの工夫

本校はスポーツ総合専攻コースがあり、チャンピオンスポーツを目指すべく生徒たちは入学し、日々切磋琢磨している。環境も整えていただき恵まれている。ただ、恵まれた環境が故、ハングリー精神や恵まれた環境のありがたさを感じる気持ちが少し薄らいでいるように感じられる。そのため、人柄も良く、常に向上心を持って練習されている山西選手に講演を依頼した。また京都出身の選手であり、皆が東京オリンピックを観戦し応援できる選手を選定した。

8主な課題等

(1) トップアスリートとの調整

どの学校でも共通することではあるが、学校の状況に合わせた講師選びと立案・準備・アスリートとの日程調整が難しい。またコロナ禍での開催となると、今後リモートでの実施など考えなければならない。

(2) 学校行事などの活用

本校はスポーツ総合専攻の生徒対象の2時間連続の授業内で実施した。内容は大変有意義なものであるため、一部の生徒対象にせず、全校生徒対象で行えると良いのではないかと考える。ただ、選手の選定や交渉が決定した時にはなかなか他のコースや学校行事との調整が難しく、できない状況となっている。

9来年度以降の実施予定

(1) 学校全体での取り組み

一部の生徒に限らず、全校生徒が東京オリンピック・パラリンピックに目を向けていくための取り組みを行えるように進めていければと考えている。